

平和公園エリア

■エリアの概要

平和公園エリアは、都市への原爆投下という、人類史上まれにみる悲惨な出来事を象徴する歴史的な場であり、核兵器廃絶・平和を希求し、平和都市として世界へ発信する顔となる場所です。祈りの空間である原爆落下中心地、平和祈念式典会場となる願いの空間である祈念像地区、平和学習に訪れる長崎原爆資料館などがあり、平和都市ナガサキを象徴する場所として、多くの人々が訪れます。

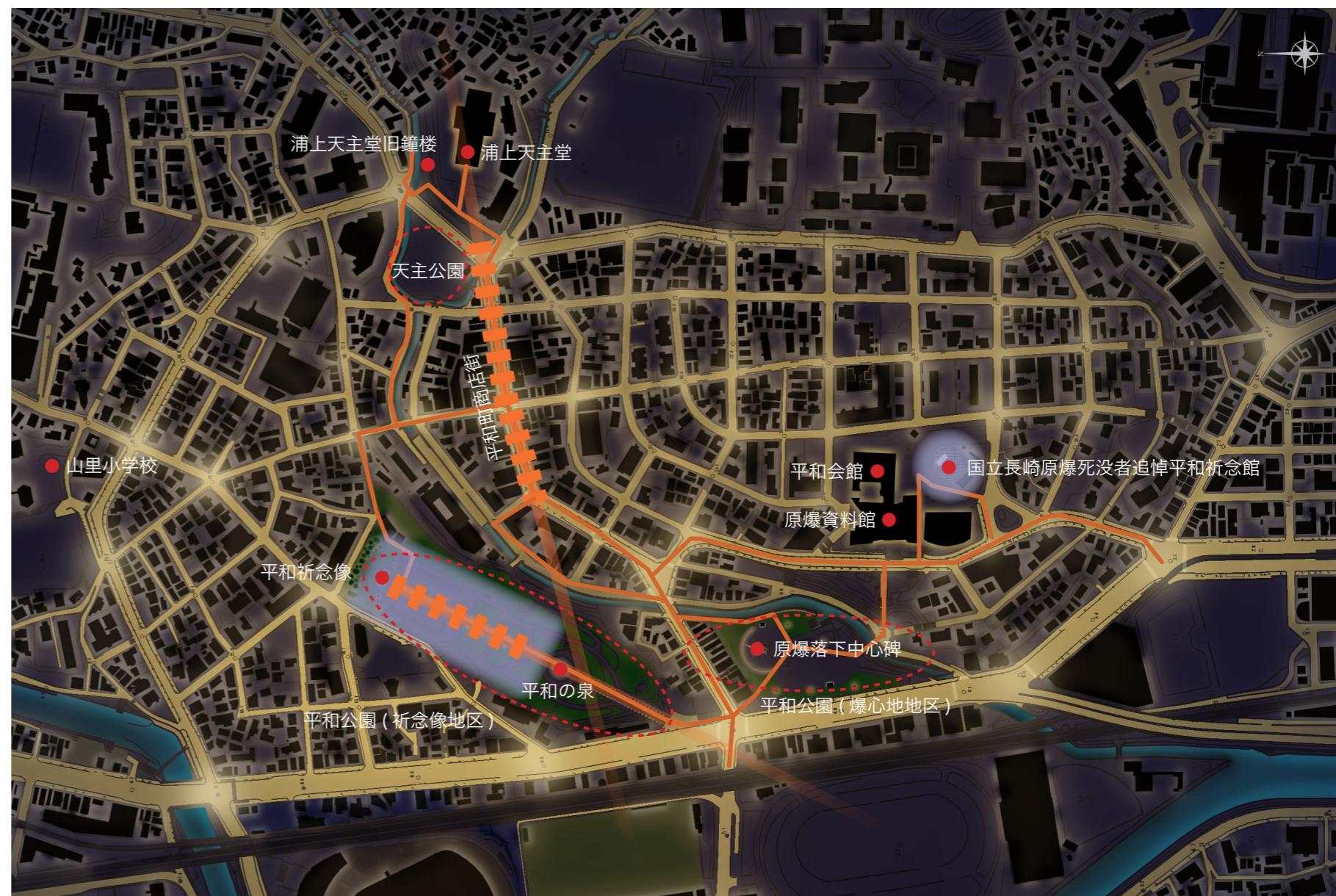
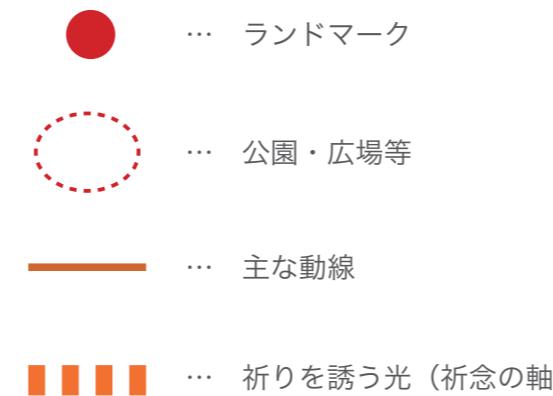


コンセプト：平和を希う光

訪れたすべての人が平和への祈りを思い起こさずにはいられないような、敬虔な感覚を呼び起こすことができる夜間景観の形成を目指します。

■方針

- ・平和祈念像等のランドマークは、繊細な陰影のあるライトアップを行います。
- ・平和祈念像や浦上天主堂への視軸線を光によって顕在化します。
- ・平和公園は聖域にふさわしい光環境とするため、公共照明を見直します。
- ・主要な動線上にある公共照明を見直し、夜間の回遊性を高めます。



4. 夜間景観向上のためのガイドライン

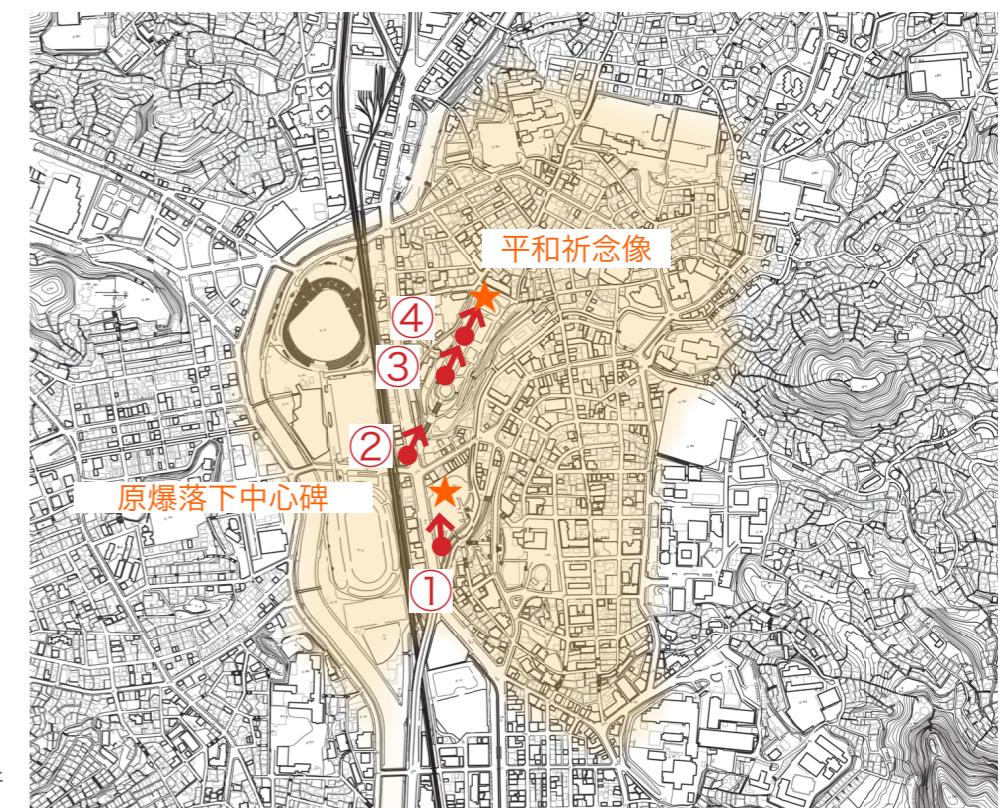
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-1. 平和公園エリア

現状調査

■現状分析と課題（平和公園）

昼間は、長崎の顔となるような整備された明るい公園です。しかし夜になると、ポール灯のグレアが目立ちます。それらのポール灯は、路面の明るさを効率的に得られるような制御がなされてない器具が多く、広場の空間はむしろ非常に暗く感じられます。



①爆心地地区



②平和公園入口



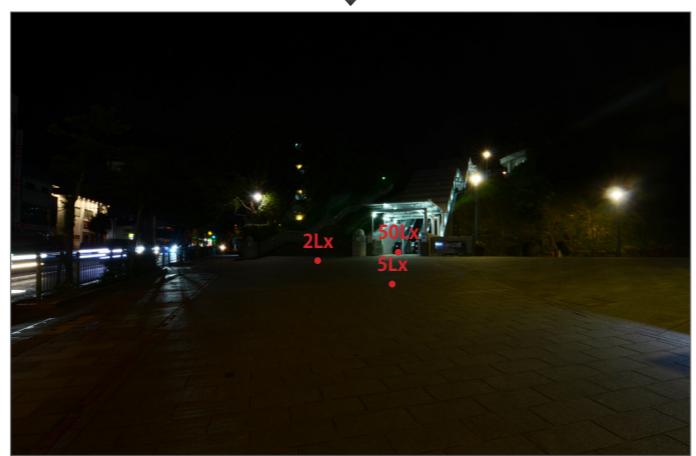
③平和祈念像までの軸線



④平和祈念像前広場



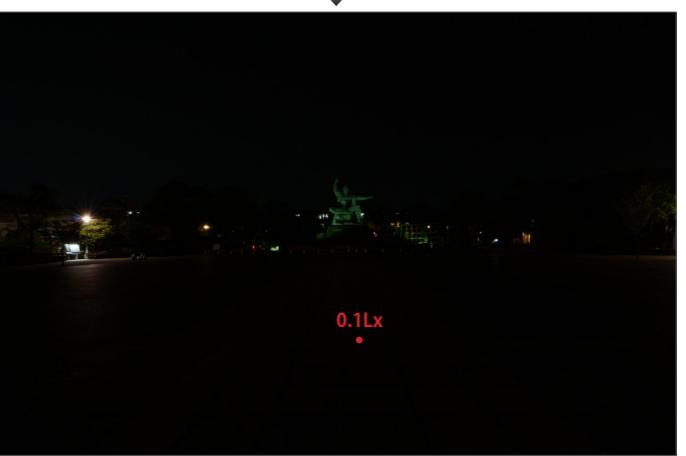
ポール灯が非常に眩しく、広場の静謐さを台無しにしている。反対に原爆落下中心碑は暗くて目立たない。



明るい空間ではあるが、迎え入れられるようなもてなしの雰囲気に欠ける。



立ち並ぶポール灯が眩しい。奥にある平和祈念像への軸線も両脇にあるモニュメントも、かき消されている。



真っ暗という印象。通路の明るさとの対比もあって、余計に暗い空間に感じられる。

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

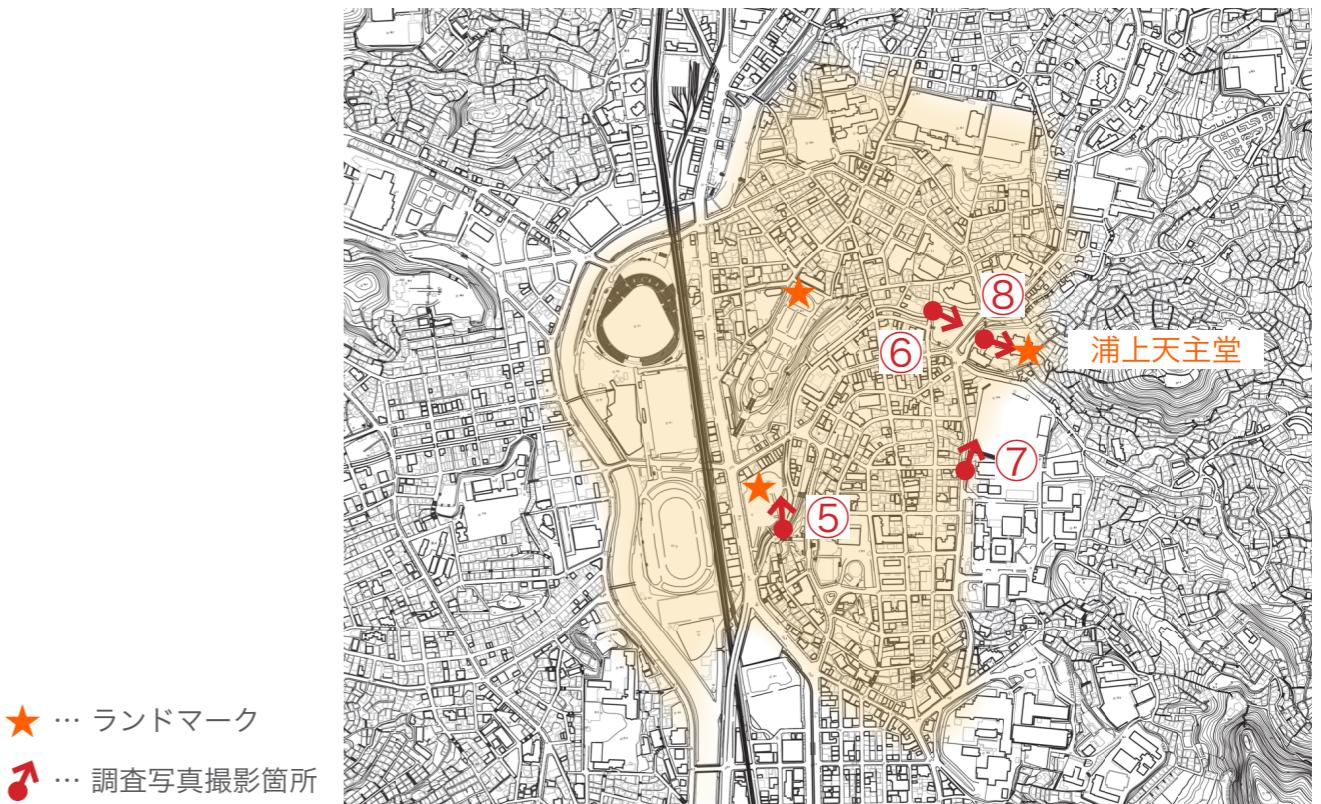
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-1. 平和公園エリア

現状調査

■現状分析と課題（平和町商店街～浦上天主堂）

爆心地の裏手や、浦上天主堂へと向かう商店街は、夜になると照明の不点灯による暗がりが目立ち、心地よい歩行空間とは言い難い状況です。そのなかで、浦上天主堂のファサード（正面）だけがしっかりと照らしだされています。地区全体で平和のランドマークのライトアップの魅力を高めるような照明計画が必要です。



⑤下の川



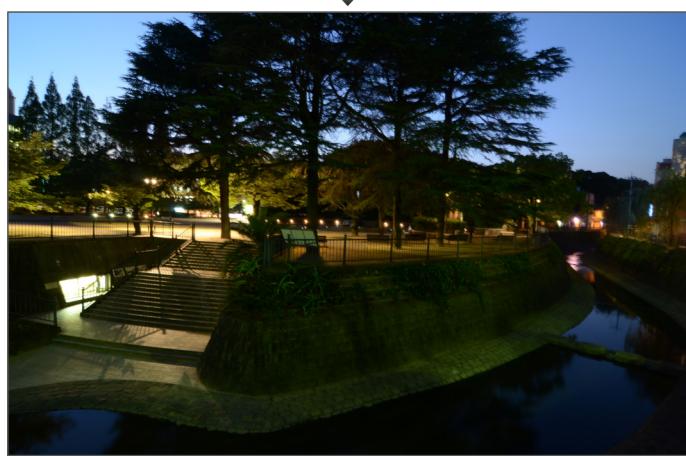
⑥浦上天主堂下



⑦平和町商店街



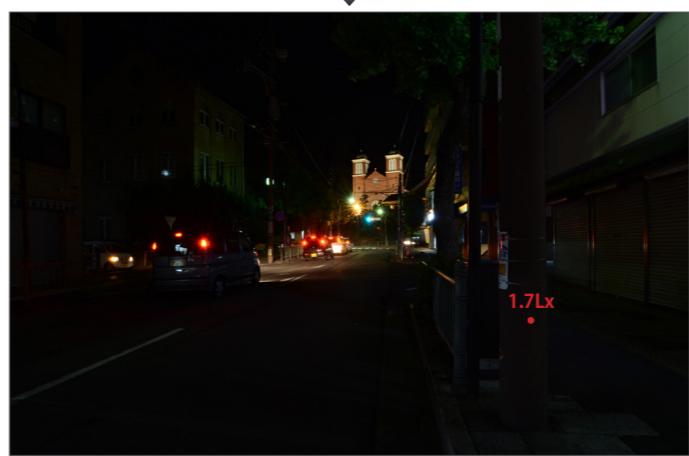
⑧浦上天主堂



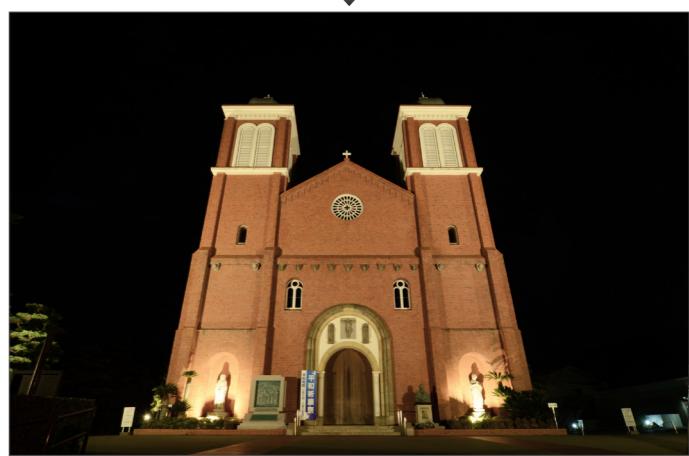
水際の歩行空間には照明がないため、夕暮れ時を過ぎると真っ暗になり、水辺の存在は闇に沈んでしまう。



天主堂のライトアップの前に、ポールのナトリウム灯のグレアが眩しい。



ポール灯の不点灯が目立ち、商店も夜には閉まるために、非常に暗い通りとなっている。



遠くからもよく見え、モニュメント性がある。
投光器によるライトアップで、やや大味な印象。

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-1. 平和公園エリア

基本原則（平和公園）

	現状調査から見た問題点	夜間景観向上のための基本原則
陰影の考え方	 <ul style="list-style-type: none"> 広場は 0.2Lx と非常に暗い 	<ul style="list-style-type: none"> 広場は 0.5 ~ 1Lx 程度に設定する 主な動線は 2 ~ 20Lx 程度に設定する 祈念像やモニュメントを引き立たせる陰影づくりを行う
色温度	 <ul style="list-style-type: none"> 3500-5000K 	<ul style="list-style-type: none"> 基本となる照明は 3000K 程度に整える 際立たせたい対象には 5000K 程度を併用する
鉛直面輝度	 <ul style="list-style-type: none"> 像やモニュメントへの照明がされておらず、奥行き感がない 	<ul style="list-style-type: none"> 祈念像やモニュメント、植栽等に対して適切なライトアップを行う
グレア対策	 <ul style="list-style-type: none"> ポール灯からのグレアにより、まぶしさに気を取られてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ポール灯を減らし、機能照明の位置を低くする（ボラード照明やフットライト等）
演色性の優先度	 <ul style="list-style-type: none"> 大きな問題なし 	<ul style="list-style-type: none"> Ra80 以上を基本とし、適切な演色性を確保する
器具	 <ul style="list-style-type: none"> 大きな問題なし 	<ul style="list-style-type: none"> LED を基本とする デザインを統一する
オペレーション		<ul style="list-style-type: none"> 平和祈念式典等と連動した特別なオペレーションを検討する

※ Lx (ルクス) とは：光によって照らされる面の明るさ（面積あたりの光束）

※ K (ケルビン) とは：光源の固有の色味を表す単位

※ 輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ（面積あたりの光度）

※ Ra (アールエー) とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-1. 平和公園エリア

基本原則（平和町商店街～浦上天主堂）

	現状調査から見た問題点		夜間景観向上のための基本原則
陰影の考え方		<ul style="list-style-type: none"> 生活の安心感や賑わいが必要なエリアだが暗い 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道は 1 Lx 程度に設定する 横断歩道と交差点は 10 ~ 20 Lx 程度に設定する
色温度		<ul style="list-style-type: none"> 4000-5000K 	<ul style="list-style-type: none"> 3000 ~ 3500K 程度に整える
鉛直面輝度		<ul style="list-style-type: none"> 軸線となる通りは店舗が閉まるとき暗い印象 	<ul style="list-style-type: none"> 店舗の中からの漏れ光を残すことを推奨する 街路樹へのライトアップを行う
グレア対策		<ul style="list-style-type: none"> ナトリウムランプが眩しく、ライトアップを邪魔している 	<ul style="list-style-type: none"> 浦上天主堂のライトアップを邪魔しない 遮光型の器具とする 商店街の機能照明は、低い位置のフットライトを主とする ポール灯は配光制御されたもの（間接光型）とする
演色性の優先度		<ul style="list-style-type: none"> 基本的に問題ないが、一部光源に演色性の問題あり 	<ul style="list-style-type: none"> Ra80 以上を基本とし、適切な演色性を確保する
器具		<ul style="list-style-type: none"> 不点灯の器具あり 	<ul style="list-style-type: none"> LED を基本とする 不点灯のままならないよう、適切な維持管理を行う
オペレーション		<ul style="list-style-type: none"> 大きな問題なし 	<ul style="list-style-type: none"> 平和祈念式典等と連動した特別なオペレーションを検討する 時間によるライトダウンを検討する

※ Lx (ルクス) とは：光によって照らされる面の明るさ（面積あたりの光束）

※ K (ケルビン) とは：光源の固有の色味を表す単位

※ 輝度とは：人の目に飛び込んでくる明るさ（面積あたりの光度）

※ Ra (アールエー) とは：光源による色の見え方の再現性を表す単位

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

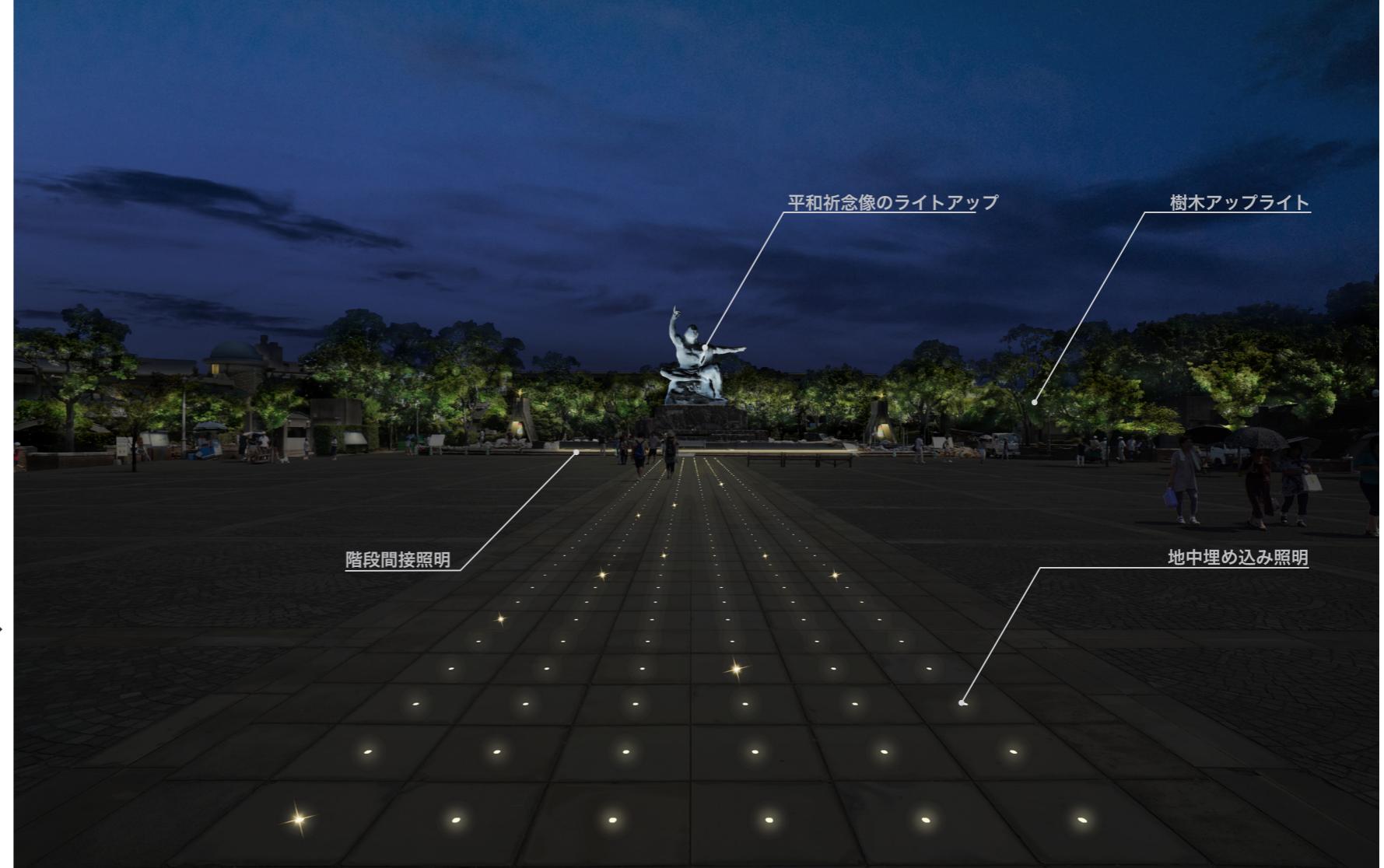
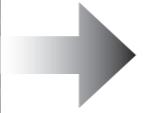
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-1. 平和公園エリア

平和公園（祈念像前広場） 整備イメージ



現状

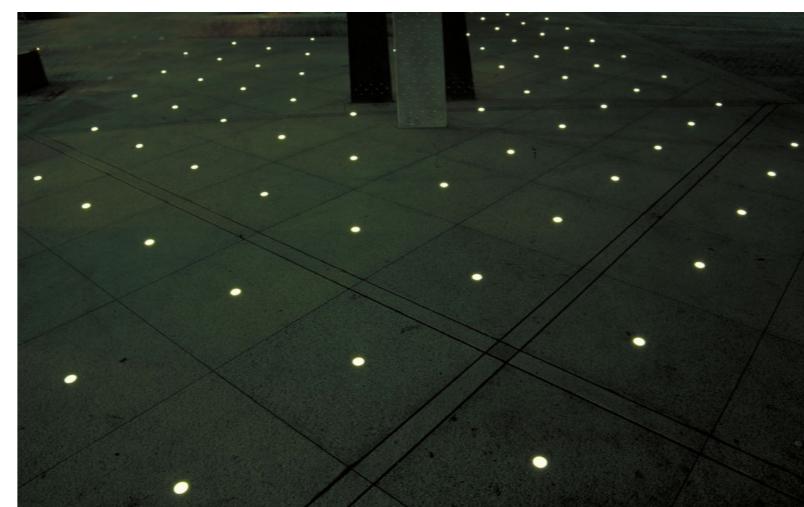


整備イメージ

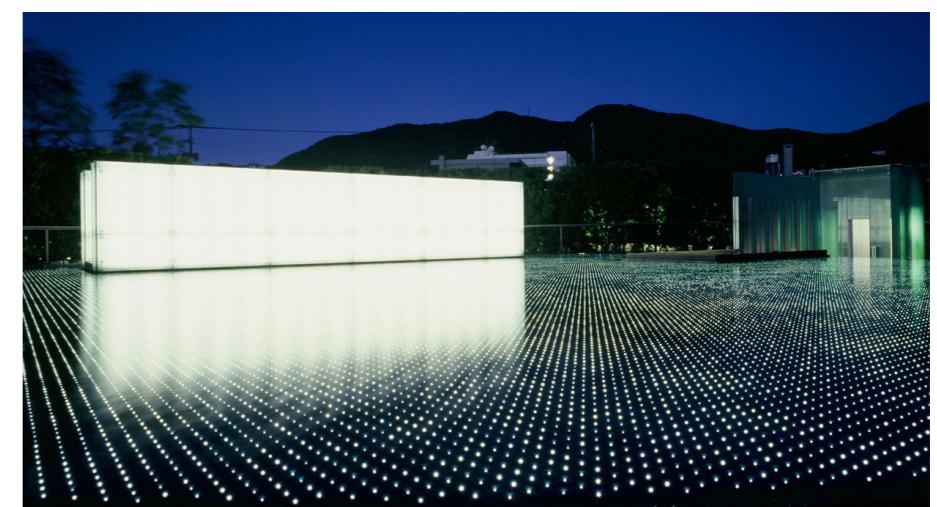
■整備イメージについて

平和祈念像のライトアップは、青銅に合った高めの色温度（5000K程度）の照明を用い、陰影が強くなりすぎないように複数の器具で多方向から照らします。平和祈念像をアイストップとともに、その背景となる樹木もアップライトすることで、広場に鉛直面の明るさを与え、空間の広がりと安心感を意識させます。

広場の路面には、祈りを誘うための手法として、平和祈念像への軸線となるエリアを中心に、整列させた光の粒を地面に散りばめ、鎮魂と祈念の光のなかを歩いているような、聖域にふさわしい空間を演出します。



地中埋め込み（ファイバー）照明の事例（東京）



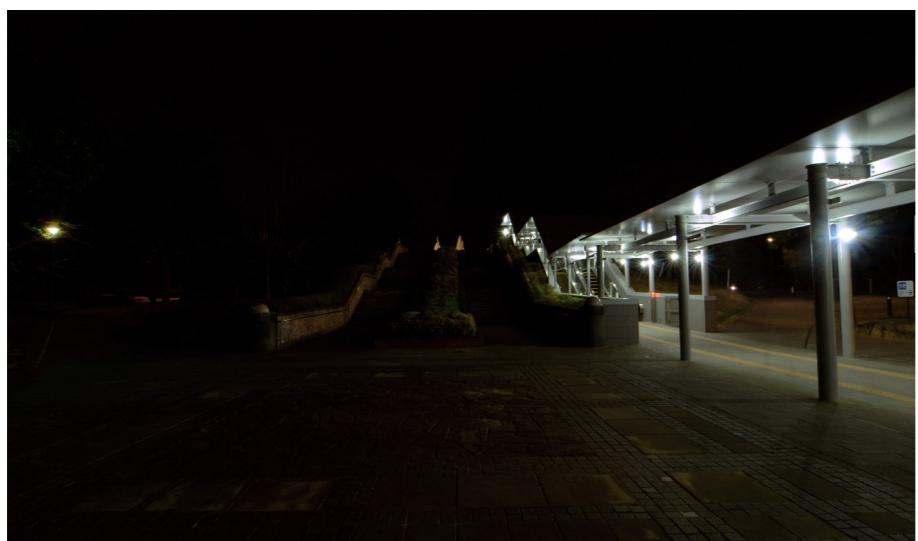
地中埋め込み（ファイバー）照明の事例（長崎）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-1. 平和公園エリア

平和公園（祈念像地区入口） 整備イメージ



現状



整備イメージ

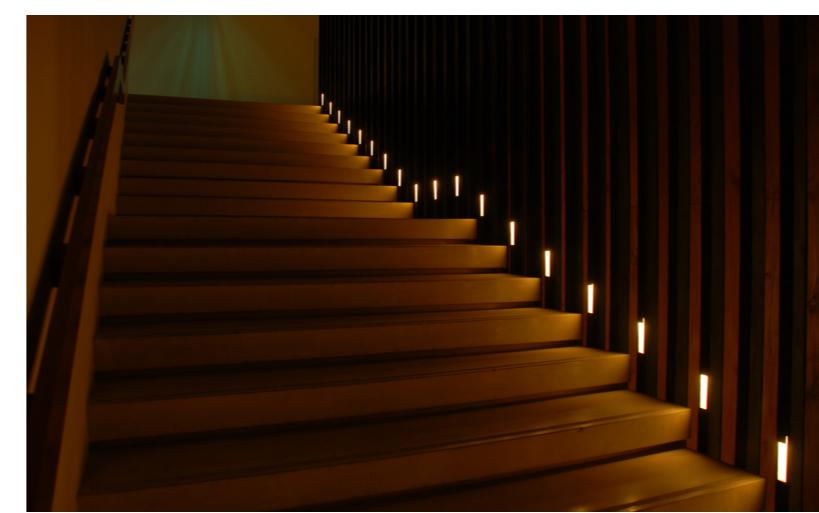
■整備イメージについて

祈念像地区へと向かう階段は、祈りの参道としての感覚を高めるために、地中埋め込み照明や低い位置のフットライトによって、穏やかな光の道をつくります。

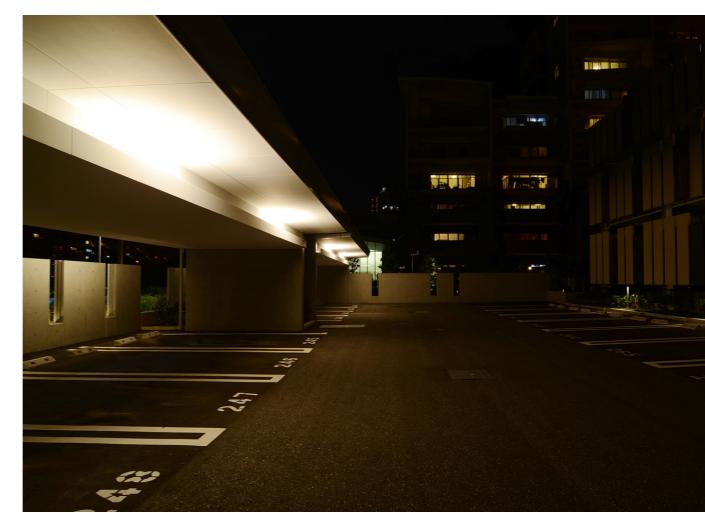
また、空間の奥行き感を見せるため、植栽の緑は演色性のよい照明で照らします。

エスカレーター側は主動線として照度を確保しながら、グレアのない、庇への間接照明を主体とした器具とします。

公園内の色温度は 3500K 程度に統一します。



フットライトのイメージ



軒天井の間接照明のイメージ

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

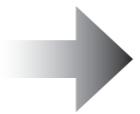
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-1. 平和公園エリア

平和公園（平和の泉） 整備イメージ



現状



整備イメージ

■整備イメージについて

平和の泉は、現状でも効果的に照らされていますが、近くに回り込むと、水を照射している光源のグレアが眩しく感じられます。このグレアをなくすため、噴水下部の水中からのアップライトによって、同様の照明効果を得るようにします。

また、エスカレーターで登ってきた人々を出迎える面となる腰壁は、両側からアップライトを行うとともに、手記が刻まれた石碑が印象付けられるようにします。



水中照明による噴水アップライトの事例（東京）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

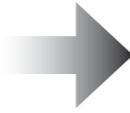
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-1. 平和公園エリア

平和公園（爆心地地区） 整備イメージ



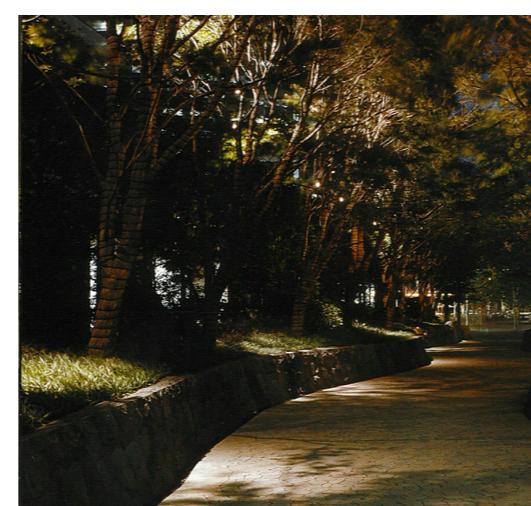
現状



整備イメージ

■整備イメージについて

原爆落下中心碑を繊細にライトアップし、その周囲は既設のフットライトの輝度を落とし、背景の樹木をアップライトして鉛直面の明るさ感を得るようにします。祈念像前広場の直線性に対し、爆心地を囲う同心円状のイメージを大切にして、広場の周囲にのみグレアのないポール灯を設置し、広場の中央は暗さを残して奥に佇む原爆落下中心碑を際立たせます。



木漏れ日のようなポール灯の事例（東京）

4. 夜間景観向上のためのガイドライン

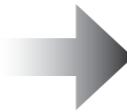
4-3. 中・近景の夜間景観づくり

4-3-1. 平和公園エリア

平和町商店街 整備イメージ



現状



整備イメージ

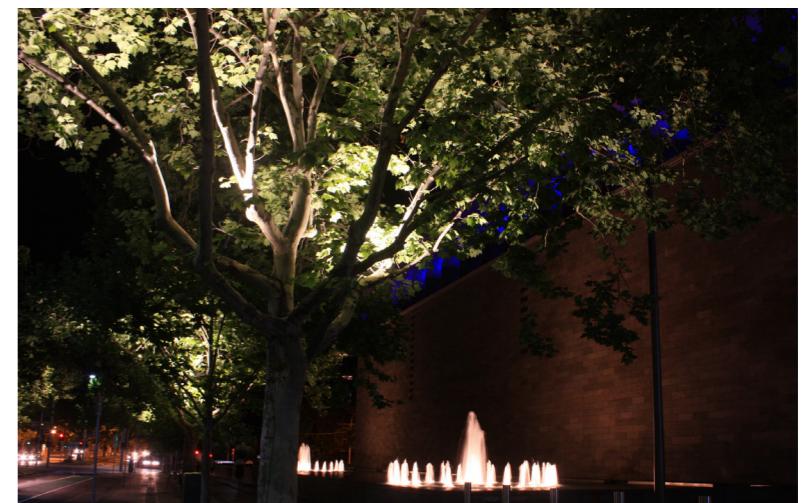
■整備イメージについて

ライトアップされた浦上天主堂へ自然と導かれるような「祈りの軸線」となるよう、周囲が一体となった魅力的な通りを目指します。既存のポール灯は道路と一緒に再整備を行い、車道の交差点には合理的なハイライトの設置を検討します。歩道に対しては、歩行者に眩しくないように、低い位置にフットライトを用います。灯具は輝度が抑えられたものとし、色温度は3000～3500K程度に統一します。

街路樹に対しては、浦上天主堂に向かって鉛直面の明るさをつないでいくような光を与えます。天主堂のライトアップとのバランスや、施工性を考慮し、樹木の幹にバンド取り付けとしたスポットライトによる照明を検討します。



交差点と横断歩道が合理的にハイライトされている車道の事例（東京）



樹木取り付けの照明器具による街路樹照明の事例（メルボルン）